

市立図書館司書へのインタビュー結果のまとめ

1. インタビューの概要

目的

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想策定にあたり、現在の浦安市立図書館の児童サービスや子どもの利用の現状、及び(仮称) 浦安市子ども図書館へのニーズを把握するため。

調査方法

対 象：浦安市立図書館 曾木副館長、高橋係長、木村副主査、酒井司書

実施日時：平成30年6月21日 13:00～14:00

実施場所：浦安市中央図書館 応接室

2. インタビュー結果のまとめ

①図書館の現状と課題について

- ・ 親子がゆっくり本を読めるスペースが不足している。
- ・ 児童書から一般書に移行する時期の子どもの読書への対応が不十分である。
- ・ 行事への参加や新規利用登録の減少等、子どもの利用が減少している。
- ・ 職員数の減少に伴い、行事やサービスを縮小している。
- ・ 学校司書への研修及び連携が不足している。

②子ども図書館への要望

- ・ 既存館との連携をしっかりとる。
- ・ さまざまな利用者層に対応する各種設備や場所の設置。(ゆったりした本を読むスペース、飲食スペース、自習室、グループ活動や学習のための部屋、芝生の広場やテラス、駐車場)
- ・ 子どもの年齢に応じた資料の収集とサービスの実施
- ・ 展示や本の見せ方の工夫
- ・ 大人向けの資料の所蔵
- ・ 図書館ならではの行事の開催
- ・ 担当の専任化
- ・ 人材の育成および研修の実施
- ・ 学校司書への研修と交流の実施
- ・ 学校その他の団体との連携

3. 図書館の利用状況等

各館の子どもの利用状況について

- ・ 平日の午前中は幼児連れ、午後は幼稚園帰りの親子や小学生の利用が多い。

- ・ 近年、父親が子どもを連れて来館し、読み聞かせをしたり、本を借りる姿がよく見られる。
- ・ 子どもの図書館利用が減少している要因のひとつとして、放課後異年齢児交流の実施など子どもの放課後の居場所づくりが進んでいることがあるのではないかと考えられる。
- ・ 読み聞かせの声への苦情がある。親子がゆっくりと本を読む場所ではなく、借りだけの図書館になってしまっている。
- ・ 子どもの新規利用登録者が減少傾向にある。
- ・ 市内の小学校の多くで朝読書や保護者による読み聞かせが実施されており、お薦めや読み聞かせに向く本の相談が頻繁にある。
- ・ 大規模改修工事で2階から1階に図書館が移設されたことにより、高齢者や親子連れの利用者が増加した。(堀江)
- ・ 近隣に小学校がある為、放課後の利用が多く児童館のような賑わいがある。(堀江)
- ・ 「えほんのじかん」の参加者が減少傾向にあるが、職員が来館した子どもたちに随時読み聞かせを行っている。(堀江)
- ・ 近隣に若い世帯が多く、常に一定数の子どもの利用がある。(堀江) (当代島)
- ・ 本を借りずに館内で読む子どもが多い。(猫実)
- ・ フロアで開催する「えほんのじかん」の読み聞かせの声への苦情があったため、開催日には表示を出して周知するなど等の工夫を行っている。(富岡)
- ・ 利用は多いが館内が狭く、車椅子やベビーカーが利用しづらい。児童書のコーナーも狭いため、公民館のロビーに書架を設置しスペースを拡張している。(日の出)
- ・ 子どもの学年が上がると図書館に足が向かなくなる傾向にある。(高洲)

事業や児童サービスの状況について

- ・ 中央館では、「おはなし会」や「わらべうたの会」等への参加者が減少しているため、今年度から実施回数を減らしている。
- ・ 類縁機関サービス等の縮小により、子どもと接する機会が減っている。
- ・ 小学校高学年以上を対象とした「図書館クラブ」事業（図書館の職業体験など）の人気の高い。
- ・ 浦安市では、小・中学生の職業インタビューや職業体験、ボランティア活動が盛んで夏休みの宿題としている学校もあるようである。図書館でも対応している。
- ・ 来年より大規模改修工事が始まるため、類縁機関との連携や子どもと触れ合う機会が減少することへの影響が懸念される。
- ・ 職員数が減少しているため、これまでと同様の業務やサービスの維持が難しくなっている。
- ・ 児童サービスを担当する非常勤職員への研修が不足している。
- ・ 小規模な保育園が増加したことで、団体貸出の需要が増えている。
- ・ 学校司書とは、連絡事項の伝達のみで、研修や情報交換が十分できていない。

その他

- ・ 子どもの本離れには個人差もある。小さい頃から図書館に通っている子どもの中には、継続的に本を読んでいる子もいる。

- ・ 小学校高学年の子どもから、一般書のコーナーに行きづらいという声があった。高学年以上の子どもたちが継続的に利用できることが重要である。
- ・ 習い事や塾に行く子どもが多く、子どもが忙しくて図書館に来館できない。特に、共働きの世帯では特に放課後や長期休暇の際の居場所として習い事をさせるケースが多いように見受けられる。

4. 子ども図書館への要望

施設や設備等について

- ・ 子どもがゆったり過ごせる場所が必要である。
- ・ 読み聞かせ等の声への苦情があるので、ある程度の広さや児童フロアと一般フロアの分離が必要か。同じフロアにあることの良さや安心感もあるのではないか。
- ・ 1日、ゆっくり図書館で過ごすためには、飲食スペースが必要である。子ども向けのメニューが充実しているとよい。
- ・ 子どもがグループ活動や学習するためのスペースや自習室があるとよい。
- ・ プラネタリウムなどの設備にこだわるよりも、本の魅力を引き出せるような工夫が必要ではないか。
- ・ どんな本を選んだら良いかわからない子どもを減らすために、子どもが気軽に本を手にとれるような展示スペースが必要である。
- ・ 親子が来館するためには駐車場は必要である。
- ・ 芝生の広場やテラスなど、戸外で本が読める場所があるとよい。

機能やサービスについて

- ・ 既存館との連携をしっかりと欲しい。図書館のシステムは同じ方がよい。
- ・ 子ども向けの行事は、他の施設や団体が開催しているようなものではなく、図書館でしかできないものをやるとよい。
- ・ 幼い子どもは保護者と来館するので、大人向けの資料もあった方がよい。
- ・ 子どもの読書に関わる人の相談にのれるような図書館になるとよい。図書館に聞けば、子どもの本について何でもわかるというのが理想。
- ・ 学校司書の研修の充実や交流等が必要である。
- ・ 学校やその他の団体との連携が必要である。

その他の要望・意見

- ・ 子どもには、将来、図書館利用者になって欲しいので、図書館では何でも本で調べられるということがわかるように、調べ物用の図書も充実したい。図鑑等の見せ方も重要である。
- ・ ライトノベルなど、子どもたちの年齢や要望に沿った図書が必要である。
- ・ 業務やサービスをしていくための人材の育成が必要である。人材育成には時間がかかる。
- ・ 異動の問題もあるが、専任の職員がいることが大切ではないか。
- ・ 子どもへの直接サービスは必要である。職員が直接子どもと接し、子どもに本を読むことや紹介することは大切な経験である。子どもの反応や子どもへの対応など、日常的に現場で学ぶことも多い。